愛知老人コミュニティーセンター ニュース

金まきば通信

第19号

日本基督教団

愛知老人コミュニティーセンター

〒470-0111 日進市米野木町南山987-88 TEL.0561-74-5548

FAX.0561-74-5561

ホームページ http://www.mb.ccnw.ne.jp/makiba E-mail makiba@mb.ccnw.ne.jp

発 行 日 2011年9月8日

発行人 鈴木 卓也

『東日本大震災』で思ったこと

スプリンクラー設置の事で、設計業者と施設長とで打合せをしていた時でした。地震を感じました。かなり大きなゆっくりした揺れが長く続きました。机の端を掴んで対応を考えていましたが、しばらくして収まりました。

そのあと、テレビで、あの地震と津波による惨憺たる被害状況をつぶさに見ました。そして、第一に思ったのは、原発による被害も含めて、これに対する救援、克服、回復のための国策が先ず講じられなくてはならない、ということでした。

次に、この「まきば」に想定外のことが起こったらどうなるかということが頭の中をよぎりました。津波が押し寄せることは先ずはなかろう、と思いました。それは想定内のことですから安心しておれますが、仮に震度7以上の地震に見舞われたら、建物は崩壊してしまうかもしれませんし、そうなれば入居者は瓦礫の下に埋もれてしまうことになります。自力で脱出できなければ助けを求めるしかありませんが、その叫びもむなしく消えてそのまま終わるとしたらどうだろう、と思いました。

こういうことを思ったのは、あの東日本大震災によって瓦礫の中に埋められたままの人や、津波で流されて果てた人々のことが、自分の身に重ね合わせて思わされたからでした。「そんなのいやだ」と叫んでみても、どうしようもない事態の中に置かれた自



▲愛知牧場の夏

理事長 篠田 潔

分に対して、どう自分が処するかを考えさせられたのでした。

その時、先ず浮かんだのは「天地は滅びるが、わた しの言葉は決して滅びな



い」(マルコ福音書13:31)と言われたイエスの言葉でした。「天地」を人間が生きている世界であるとすれば、これは天変地異と呼ばれるような自然災害によって失われます。今回の災害にあった多くの人々にとって、それは今まで生きてきた世界が滅んだことを意味しますし、わたしたち個々人にとっても、死ぬ時はそれまで生きてきた天地が消え失せることになります。さらに地球温暖化や放射能拡散など、人間の便宜や利益追求の結果が、今まで存在していた天地をまるで変えてしまい、遂には滅ぼしてしまうに至るのではないかという危惧を覚えます。

それで、イエスが予告された「天地の滅び」は、こういう人間の自己本位の生き方が招くものであることにも思い到りました。が、その時また「塵に口をつけよ、望みが見いだされるかもしれない」との「哀歌」(3:29)の作者と、「死の谷を行くときも、私は災いを恐れない。あなたがわたしと共にいてくださる」という詩篇(23:4)の記者の言葉と、そこに秘められている神への信頼による「生死を踏まえての人間の在りよう」に思いをいたしました。

そして「まきば」での具体的なさまざまな営みも、

この 「滅びないもの」 に 拠るものでありたいと 思った次第でした。



「まきば」の防災 …東日本大震災を教訓に

東日本大震災を通して、私たちは自然災害の恐ろしさを再確認することになりました。 それでなくても、東海大地震の可能性、あるいは東南海大地震、南海大地震の3連動型 大震災も取りざたされている折、震災弱者を守る防災体制の強化が緊急の課題とされ ています。今回は、災害に備えた「まきば」の態勢についてご紹介します。

防災訓練

「まきば」では、大きな災害に備えて、春と秋、毎年2 回の防災訓練を行っています。

非常放送で始まり、非常階段を使っての避難、消火訓練、防火ドアの実験、講師による指導、担架での救助、非常食の紹介など、毎回工夫を凝らした訓練を実施しています。

講師には、尾三消防本部日進消防署や日進市役所防 災課のご協力を得ています。この訓練は、日進市内諸施 設の中でも「特に整然と行われている」と評価が高く、 2008年には施設長が消防職員研修会の講師に招か れ、日進消防署で100人の隊員を前に1時間の講演を してきました。

設備

事務所には、緊急の事態に備えて消防署に直接つながる専用非常電話が設置してあります。

その他、各居室及び共用部分に煙感知器が取り付けられており、火災が発生すれば非常灯がクルクル回って「火事です!火事です!」と放送しながら全館に警報が鳴り響きます。各階には防火水槽につながる消火栓設備があり、随所に消火器も備えられています。







▲防火設備点検

◀消防署との防災会議

近隣施設との協力

消防署に協力いただくことは勿論ですが、いざという時には近隣施設の助け合いも大切です。

愛知国際病院や老人保健施設「愛泉館」、特別養護 老人ホーム「のぞみ」との緊密な協力態勢も必要で す。それぞれの施設の防災訓練にも「まきば」職員が 参加するように心掛けています。



非常食

震災に備えて、非常食を準備しています。ミネラルウォーターやパンの缶詰、乾パン、その他おかず類の缶詰などが備えられています。

また、厨房は全国に展開している「日清医療食品」と 提携しており、地震の際には他地域から緊急物資の運 送体制や応援隊が駆けつけるシステムができあがっ ています。







▲災害についての説明



▲発生した大地震について

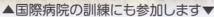






▲非常階段を使った避難訓練















▲消防士の指導による消火・放水訓練▲

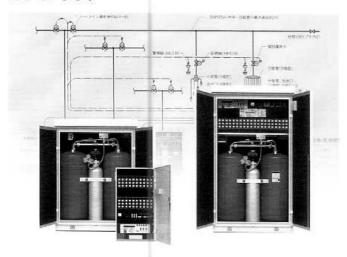
「まきば」の防災・・・東日本大震災を教訓に

スプリンクラー設備検討中

「まきば」本館は、防火壁構造でできており、隣室の炎が燃え移ることはありません。しかし、本館ができてから15年が経過して消防法も変わり、近年スプリンクラーの設置が求められるようになってきました。

そこで「まきば」では、より安全な施設を目指して、スプリンクラー設置の検討に入りました。しかし、耐火構造がしっかりしている建物ほど新たな防火設備の導入には難しい条件があります。設計事務所に依頼して、工事による生活への影響が極力少ない設備・工法の検討に入っています。

今、検討しているのは、コンパクトで安全、効率的な「パッケージ型自動消火設備」の導入です。屋上に薬剤の入ったボンベを備え、いざという時には、炎を感知した部屋に無害な薬剤を噴霧して消火する設備です。まさに万全の対策をもって、不慮のできごとに備えようとしています。



東日本大震災支援のために

献金箱を設置

日本基督教団社会委員会の呼びかけに応えて、玄関受付前に献金箱を設置しました。入居者の皆様の協

力で集まったお金は、教 団救援対策本部を通し て被災地の支援のため に捧げられます。





近隣教会の日曜出勤者に対応する

金曜礼拝を始める

東日本大震災の津波被害による福島第一原子力発電所の事故から端を発した原発不信は、菅総理のパフォーマンスとの批判を受けながらも浜岡原子力発電所の停止につながり、中部電力管内にも電力不足が懸念され始めました。

そこで、中部電力管内の最大電力消費企業であるト ヨタ自動車が、グループや下請・孫請企業も巻き込ん で、7月から9月の3ヶ月間、土曜・日曜日に稼動して、 木曜・金曜日を休業することになりました。

それに伴い、トヨタ社員・関連事業所社員が聖日礼拝を守れなくなるという緊急事態が発生するに到りました。この「風が吹けば桶屋が…」式に、思わぬ形で被災者となられた方たちのために、「まきば」で金曜礼拝をおこなうことにしました。





「南山教会」と「まきば」が協力して7月から9月までの3ヶ月間、金曜日の午前10時30分から開いています。南山教会の大島牧師・西岡伝道師や「まきば」在住の隠退教師、近隣教会の先生方に協力を求め、3ヶ月間、計14回の礼拝を守っています。

トヨタ関連従業員の皆様、入居者の皆様、職員、南山教会関係者を含めて、毎回30~40人の方々がご出席くださり、祈りを共にしています。

そして、第一金曜日には聖餐式も行っています。



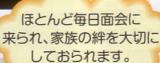
今年4月4日に、室伏八四(むろふし・やつよ)様が 入居され、お元気に「まきば」での生活を楽しんで おられます。今号では、ご了解を得て、八四様の ご家族を紹介します。



アジアの鉄人 室伏 重信様 ご長男

陸上男子ハンマー投げ日 本選手権10連覇(優勝12 回)、オリンピック代表4回、 元日本記録保持者。アジア 大会で5連覇し、「アジアの 鉄人」と呼ばれている。中京 大学体育学部教授、同大陸 上部監督、アテネオリンピッ ク日本選手団ヘッドコーチな どを歴任。現在中京大学 名誉教授、同大陸上部顧問。













◀八四様自身も、若い頃には陸上短距離で活躍しておられ、 かつての神宮大会 (現在の日本選手権) に出場した経歴を お持ちです。

お孫様

アテネオリンピック 金メダリスト 室伏 広治様

陸上男子ハンマー投げ日本選手権17連覇中。 体育学博士、中京大学スポーツ科学部競技スポーツ科学科准教授、同大陸上部コーチ。日本人なら知らない人はいないといわれるほど有名な、日本陸上界の第一人者である。

2005年「紫綬褒章」 受章。2006年「ベストスマイル・オブ・ザ・イヤー」、2007年「全国理容連合会さわやかヘアスタイル大賞」「テレビ朝日ビッグスポーツ特別賞」 など受賞多数。 最近では多くのコマーシャルに出演している。 ミズノ (株所属。

お忙しい仕事、トレーニング、競技会の合間を縫って、週に1回のペースでお祖母さまへの面会にお越しくださっています。「来年のロンドンオリンピックには、大挙して応援に行こう!」と入居者の皆様も盛り上がっておられます。

お孫様

現·日本記録保持者 室伏 由佳様

現在陸上女子 "円盤投" と "ハンマー投" 2種目の日本記録保持者。アテネオリンピック代表、2011年広州アジア大会女子ハンマー投銅メダル。日本選手権女子円盤投10連覇中。

所属先のミズノ㈱では女性用ブランドのモデルにも起用されている。大の猫好き、また、料理好きでもある。

ほとんど毎日面会に訪れ、 祖母八四様の世話をされている 優しいお嬢様です。 「いつ練習をしているのだろう?」と スタッフー同心配しています。

特別企画メニューに 沖縄料理が加わりました。

毎月1回、特別メニューを提供しています。これまでは、フランス料理や和食、中華料理でしたが、今年から新たに沖縄料理が登場しました。

日清医療食品の特別食専門の職人が那覇まで行って勉強して来た結果、メニューには「いなむるちー」「ラフテー」に「海ぶどうのサラダ」、デザートには「マンゴープリンとシークワーサージュレ」が付きました。

沖縄から食材を空輸して取り寄せるなど工夫を凝らしたメニューは、暑い7月の食卓に南国気分を届けてくれました。





愛知県高齢福祉課及び目進市の 立入調査が行われました。

5月18日、監督官庁による立入調査が行われました。県の調査は4年ぶりになりますが、日頃のきめ細かな運営を評価していただくことができました。

新しい看板が設置されました。

米野木駅北の交差点に、大きな案内看板が設置されました。駅のすぐ北にあり、斜め前にはスーパーマーケットが建築中です。「愛知国際病院」、「のぞみ」と「まきば」の3施設が、巨大な一つのスペースに並んで、協力関係にある近隣施設の

一体感を感じさせる 効果を演出してい ます。





入居予約受付中

見学や体験入居もできます(要予約)



日本基督教団 愛知老人コミュニティーセンター silver home

シルバーホーム「まきば」と共に祈りの生活を…… 広い牧場を臨み、近くに愛知池があり、 緑豊かな自然に包まれて暮らす… 真向かいに病院があり、牧場をはさんで 教会もあります。

キリスト教プログラム

「礼拝」「聖餐式」「聖書の集い」「讃美の集い」などの 定例集会が毎週施設内であり、自由に参加できます。 主日礼拝出席者のために、日本基督教団南山教会から バスが迎えに来ます。その他、南山教会の「聖書研究 祈祷会」、真向かいにある愛知国際病院の「聖書集会」 にも自由に出席することができます。

交 通 機 関

名鉄豊田線(名古屋市営地下鉄鶴舞線より直通乗り入れ)黒笹駅から900m 東名高速道路・三好ICから3.4Km 日進市公共巡回バス・南山エピック南から200m

提携医療機関

医療法人財団愛泉会愛知国際病院(内科、外科、整形外科、皮膚科、リハビリテーション科、胃腸科、

神経内科、肛門科、循環器科、リウマチ科、東洋医学科)、武田歯科医院、たかはし眼科

類型及び表示事項

施設の類型/介護付有料老人ホーム(一部住宅型) 居室の権利形態/利用権方式 介護保険/愛知県指定特定施設入居者生活介護・介護予防特定施設入居者生活介護 入居時の要件/60才以上で入居時自立及び要支援の方

介護居室区分/個室及び二人部屋

介護にかかわる職員体制/2:1以上

入居一時金 1人部屋/1500万円(22.05m²) 2人部屋/2200万円(32.76m²) 返還金制度あり

1人部屋/ 89,250円/月 2人部屋/136.500円/月 ■管理費に含まれないサービス:

居室にかかる電気代・電話代の実費、介護保険の 自己負担分、医療費、介護保険で充当できない介助、 個別的な要望によるサービス、エアコンレンタル料。

費 50,000円/月。3食30日分の料金です。召し上がらなかった場合はいただきません。

お問い合わせ先

(宗)日本基督教団 愛知老人コミュニティーセンター シルバーホーム「まきば」 〒470-0111 愛知県日進市米野木町南山987-88 TEL.0561-74-5548 FAX.0561-74-5561

http://www.mb.ccnw.ne.jp/makiba

編集後記

今年3月の東日本大震災で被災した多くの方々、施設、学校等のうえに主の豊かなお守 りとお導きを心からお祈りします。この震災では物心両面で備えていたにもかかわらず 辛い思いをする人が大勢ありました。その意味では防災対策があるからといっても全く 安全とは言えないことは誰もが感じた事と思います。それにもかかわらず今回お届けし た「まきば」の内容は防災対策に焦点をあわせました。すこしでも改善する余地があれば それに取り組みたいと願っているからです。さらに災害時に対する備えは施設が大きく なればなるほどとても大切で複雑になり、また普段は知ることの出来ない部分です。

多くの方々に「まきば」の防災対策を知っていただき、さらなるお祈りとアイディアを 頂ければと思います。今後も教会の業としての「まきば」を、また「まきば」にかかわる 一人ひとりを、覚えてお支えくださいますようお願いいたします。 (長田)

